



学校だより

(2月号) 平成31年1月31日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

【学校の教育目標】

- ◎ 夢 (ゆめ) にむかって ともに学びあう学校
 - ・進んで勉強する子
 - ・自分からあいさつのできる子
 - ・仲よくたすけあう子
 - ・じょうぶな子

《今月の生活目標》外で元気いっぱい運動しよう



『後押し』

教頭 笠原 芳美

今年の「立春」は2月4日(月)です。前日の2月3日(日)が「節分」です。「節分」とは春夏秋冬それぞれの季節が始まる日の前日ことをいいます。また、「季節を分ける」という意味があります。季節を分ける「節分」は、一年間に4回あります。つまり、「節分」は季節の「節目」ということになります。

*小学校2年生A子さんは、「とても丁寧な字ですね。」と声を掛けてくれた担任の先生の言葉が信じられませんでした。なぜかというと、小学校1年生の時、鉛筆の正しい持ち方ができない、ノートのマスからはみ出る、あまりの字の下手さに驚いた母親から「毎日50音をノートに練習しなさい。」と言われ泣きながら練習していたのですから。自分が字のことで褒められるなんて思いもよりませんでした。よほど褒められたことが嬉しかったのでしょうか。50音を練習することを続けたおかげで、自分の字に少し自信が持てました。すると不思議なことに引っ込み思案でお友達に自分から話しかけるのが苦手だったA子さんが休み時間に友達と一緒にドッジボールをする姿が見られるようになりました。

*小学校5年生B子さんは、音楽の時間に「きれいな声をしているね。」と褒められました。その日、家に帰ってそのことを家族に嬉しそうに話したそうです。歌うことが好きになったB子さん。地元の合唱団に入り毎週土曜日の練習が楽しみだったとのこと。さらに、部活動でも合唱を選び、全国大会に出場経験も得ることができたそうです。小学校5年生から始めた合唱とのかかわりは大人になっても続いたそうです。

*中学校3年生C子さんは、「将来の夢」というテーマで書いた作文について、担任の先生から「あなたに夢はかなえられるかしら。」と否定され、とても悲しかったそうです。誰にも見せないという約束で現代国語の時間に書いた作文、正直に自分の夢を書いたからこそショックが大きかったそうです。「やっぱり私には無理なのかな。」と思いながらも夢をあきらめることができなかったC子さん。夢を追い続けることで叶えることができたそうです。

自分が苦手なことや経験の浅いものに対しては、進んで取り組むことは容易ではありません。しかし、些細なきっかけによる「後押し」によって「やってみよう。」「続けよう。」という気持ちになることもあります。また、反対に意欲を失うこともあります。人生の「節目」にタイミングを逃さずに「後押し」できる人がそばにいることで子どもは夢や希望をもつことができるのではないのでしょうか。最後に、A子さん、B子さん、C子さんの名前は「芳美」といいます。